

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100400		
法人名	有限会社 シルバーケア夢		
事業所名	グループホーム サンサン丸		
所在地	沖縄県那覇市首里末吉町3丁目60番地1		
自己評価作成日	平成27年10月19日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100400-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100400-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年12月2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様が入浴をする際、好きな時に好きな時間に入浴する事ができる。基本的には夜入浴する事で身体の循環が良くなり入眠しやすい環境を作ることができる。  
 ○口腔ケアを毎食後おこなっている。口腔内の清潔を保つと共に、嚥下の状態や食事の形状を検討し御家族や歯科医師と連携してケアを行う事ができる。  
 ○食事を利用者様の状態に合わせて、利用者様と一緒に作ることができる。一緒に調理することで意欲や自信を高めることができ、調理ができない方も臭覚、味覚、聴覚等の五感を刺激する。また食欲をそそる事で身体の維持向上を図ることができる。  
 ○利用者様と一緒に那覇市ウォーキング大会にボランティアとして参加することができ、地域とのつながりがもてる

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は今年度、医療連携を強化し、利用者の日頃の体調管理や内服管理、緊急時の対応に取り組んでいる。また、「カナミック」というネット上で主治医や訪問看護師とリアルタイムで利用者の状況報告や指示を受けるなど連携をとっている。外出の機会を増やし利用者の体調や天気によって、散歩やドライブに出かけている。また、毎年恒例の春の遠足、秋の遠足には家族も一緒に参加出来るよう、事前の計画や準備を行い、実施後の反省点なども会議で話し合われている。利用者から食事についてのアンケートを実施し、好みや要望を聞いている。今年は、「麺が食べたい」との意見に、「麺の日」を決めるなど、利用者の意見を反映させるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で理念づくりを行っている。	開設当初職員全員で作った「笑顔で優しく、心から愛情をこめて」の理念のもと、地域と一体となった社会参加への支援等3つの方針を掲げている。職員は年1回の業務マニュアルの読み合わせで理念を確認しており、今年度は利用者が重度化した為、「医療との連携」を強化しケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、保育園等と連携をとりあいながら活動を行っている。	今年度は事業所主催の祭りの開催は実施できなかったが、隣接する保育園とは保育園の夕涼み会に参加など、日頃の散歩や行事等で交流している。運営推進会議委員の自治会長や民生委員から地域の情報を得ているが、事業所の区域に自治会が無い為、地域住民との交流の機会が少ない。	事業所での行事開催やボランティア協力依頼、職場体験受入れ等、積極的に地域との交流に取り組むことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那覇市協働大使に参加し、健康福祉部に所属している。広報活動や啓蒙活動を行うと共にひやみかちウォーキングで利用者と一緒にボランティアとして参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員の方々の意見や情報を取り入れ、地域の祭りに参加したり、保育園と交流を行っている。	推進会議は、利用者、家族、市職員、地域代表が参加し2ヶ月に1回開催している。事業所の活動報告や事故報告、外部評価結果の報告を行い、今後の活動について推進委員から意見を得ている。議事録の配布はしていないが、家族の面会記録のファイルと一緒に綴り閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市のグループホーム連絡会に参加し、ケアの実情や困っている事等を話し合い、連携している。	2ヶ月に1回の市のグループホーム連絡会や運営推進会議で市担当者と情報交換を行なっている。事故対応や不明な点は事業所が直接市役所を訪問し担当者との連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会の参加や勉強会の開催等	身体拘束や虐待に関する外部研修に参加した職員が、職員全員に内部研修で報告し理解を深めている。立ち上がりが多く転倒してしまう利用者が2名おり、先月よりやむを得ない場合のみ身体拘束を行なっている。家族に説明を行い確認をしている。ケアプランの見直し、経過記録を記録している。	

沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会の参加や勉強会の開催。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会の参加や勉強会の開催		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や御家族が納得いくまで話し合う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の立ち上げ、御家族の意見や要望を取り入れ業務に反映させている。	利用者からは、日頃のケアの中で、家族からは、日頃の面会や行事参加時に意見や要望を聞いている。利用者へは毎年食事アンケートを実施し、「麺が食べたい」の意見に、業務ミーティングにて職員で話し合い、今年は土曜日に「麺の日」と決めるなど、意見や要望を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる仕組みをつくっている。互助会な行事や職員の誕生会等の飲みニュケーションなどで話しやすい環境や意見を吸い上げ働きやすい環境づくりを随時検討している。	毎月の業務ミーティングで職員の意見や提案ができる機会を設けている。今年は職員の要望により洗濯干し場の屋根の取付や手薄になる時間帯を無くすため勤務時間の変更を行っている。育児休暇後継続して働けるよう、希望があれば、法人内の異動を実施するなど働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇の導入、施行。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修委員の選任や勉強会の開催等		

沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県GH連絡会への参加や那覇市Gh連絡会への参加に職員間の交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズの掘り起こし等に時間をかけて御本人のお話を聴く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズの掘り起こし等に時間をかけて御家族のお話を聴く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や訪問看護等、医療連携機関との連携及び薬剤師との連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を踏まえ、アセスメントやケアプランを作成しその内容をケース会議等で検討している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により個別支援を行っている。 御家族がこちらへ足を運んでいただけるよう、行事への参加や外出支援等も行っており、御家族との関係性が途切れない様な環境づくりをおこなっている。	近隣の散歩や買い物帰りに利用者の自宅付近を通ったり、利用者の希望により地元のエイサー祭りに行く等の支援を実施している。正月・旧盆は家族に依頼しほぼ全利用者が帰宅している。友人や知人が訪ねて来て、利用者とは話して過ごしていただくこともある。	

沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時に利用者がお互いをかばい合い、車椅子を押してくれたり、荷物を持ってくれたりして支え合いながら協力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院時支援を行い地域に繋いでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいアセスメントを実施、ケース会議や業務ミーティングの実施。	アセスメントはセンター方式を取り入れ、一人ひとりの思いや希望をきめ細かく記録し、ケース会議や業務ミーティングにて全職員で共有している。意思表示が困難な利用者に対しては家族からの情報聴取や本人の表情等から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きめ細かいアセスメントを実施し、利用者様の馴染みの持ち物(畳や鏡台、テレビ)の持ち込みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル表、体重表、排泄チェック表の記録、疎遠経過表、薬剤管理票を作成し記入することで、日々の体調管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもとより医師や御家族様、訪問看護やデイケア等。	本人・家族・職員・訪問看護等が出席するサービス担当者会議を訪問診療時に開催、医師の意見も反映し介護計画作成を行なっている。毎月モニタリングを実施し、計画の見直しは利用者の状態変化時や更新時に行っている。会議に参加出来ない職員はケース会議で記録の閲覧を行ない情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務ミーティングやケース会議等で検討している。		

沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時、外出支援、お正月やお盆の帰省の支援		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	那覇市協働大使のボランティアに利用者様の希望で参加。自治会の祭り等の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の病院受診に同行、もしくは日々の体調管理や状態を主治医に報告している。またカンファレンスにも可能な限り参加していただいている。	通院は基本家族対応だが、家族が通院困難の場合は訪問診療を利用している。今年から事業所が訪問看護と契約し定期訪問や緊急時の対応など連携を行なっている。また、「カナミック」というネット上で主治医・訪問看護師とリアルタイムで利用者の状況報告を行ない、指示を受けるなどの連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し日常的な健康管理を連携しながら行っている。ケアに関してのアドバイス等を		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にカンファレンスをお願いし、医療連携を行っている。急変時は同行し状況報告等の連携に勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の中に重度化した終末期に向けた指針を明記し、利用者様及び御家族に同意を得ている。医師や医療関係者を含めてカンファレンスを行い、終末期に向けた取り組みを行っている。	終末期の依頼は2件あったが、看取りは病院での対応となった。利用者の重度化に伴い管理者が喀痰吸引研修も受講している。グループホーム連絡会にて職員が代表し研修に参加、フィードバック研修で全職員に情報伝達をしている。終末期に向けた指針を改正し、入居時に説明しているがマニュアルが整備されていない。	事業所が契約している訪問看護への協力も得ながら、終末期ケアのマニュアルの整備が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先やご本人様の症状、薬の内容を作成している(カードックス) 外出時は持ち歩き緊急時に備えている。		

沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に水や電気を備蓄するシステムがある。年に数回消防訓練や災害訓練を行い、非常時に備えている。	消防署協力の下、法人全体で総合訓練を昼間と夜間想定の間2回実施している。事業所自体が高台になっており避難場所になり得る為、市からの指示で食糧品を1週間分備蓄している。地域・近隣へは事前に声かけはしたが実際訓練参加までには至っていない。	事前に地域住民・近隣施設への協力依頼を行なう等協力が得られるような工夫が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務ミーティングやケース会議等で検討し、職員間で話し合っている。オムツや下着を見えるところに置かない等、プライバシーに配慮している。たま利用者様にわかりやすく丁寧な説明を行っている。	接遇マナー研修に参加、日頃から敬った言葉づかいに気をつけたり、排泄介助もなるべく同性介助ができるようにしたりと基本的態度を徹底し、オムツも下着と考え見えないように置く等プライバシーに配慮し対応をしている。料理が得意な利用者に調理の依頼をする等利用者の力が発揮できるような場面を作り利用者の自尊心を高めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出を利用者様の意向によって行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間を基本的には決めているが、その日の体調やペースに合わせて時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや整容、髭剃り等の支援。理容事業者との連携、美容介護の取り入れ。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感で感じる食事の提供を心掛けている。台所で利用者様と一緒に料理を作ったり、香で食欲をそそるような支援や見て美味しくような盛り付けを行っている。	事業所内で調理専属パートと職員が交代して3食調理し管理者も一緒に摂っている。毎年食事についてのアンケートを実施、今年は「麺が食べたい」という利用者の希望を取り入れている。料理が得意な利用者と食材の買い出しや調理、おやつ作りを行ない食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助、声掛けや数回に分けての食事支援、食器や配膳の工夫でおいしく楽しい食事ができるような環境づくりを行っている。また嚥下の状態を確認しながら、誤嚥がないように見守りを行っている。		

沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施。訪問歯科との連携、緑茶でのうがい等。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の実施、声掛けや時間誘導で排尿のコントロールを行っている。排泄記録を主治医に報告し連携して、日々のケアにつなげている。	現在1名を除いて利用者は日中トイレ排泄ができるように排泄チェック表を作成、個別の排泄パターンを把握している。訴えが無い利用者には定時に声かけし、同性介助を行なう等支援している。排便に関しては主治医と連携を取り内服で調整することで、体調管理にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質、イモ類の食事の提供や栄養バランスのとれた食事の提供、おやつ時にはヨーグルト等の乳製品の提供など、利用者様に応じた食事の形態(きざみ、アチビー、ペースト等)の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時に、好きな時間に入浴ができる。自由な入浴。週2回、週3回、毎日とそれぞれ違う。また失禁や便いじりがあった時にも昼夜問わず清潔を保っている。	基本的に週3回で予定しているが、利用者の希望に合わせて入浴回数や曜日を変更、好きな時間に入浴する等一人ひとりの希望に沿った支援をしている。浴室は利用者1人と職員1人が入るスペースで、2人介助が必要な利用者はストレッチャーを使用し介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠記録を導入し、医師と連携を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成、誰が服薬したのか、飲み忘れたらはないか等、服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアへの参加や散歩を楽しんだり、演劇鑑賞したりして、楽しみのある生活が送れるよう支援している。		



沖縄県(グループホームサンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望により外出支援を行っている。また御家族との関係性が途切れないように御家族との外出も支援している。	ほとんど毎日近隣の公園や散歩を実施、週1回は瀬長島やビーチ等にドライブに出かけ、その時に応じて希望者が参加している。普段行けないような場所へ春・秋の遠足(動物園や植物園等)を家族とともに参加できるように計画・実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は金銭管理を行っていたが、前年度から行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に、御家族と電話することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きなものをお部屋に持ち込み、リラックスできる環境づくりに努めている。折り紙、家族写真、三線や鏡台など好きなところに置いてある。	共用空間の様々な場所でくつろげるように玄関前やフロア内に2~3人掛けのソファを設置している。クリスマスツリー等季節感を取り入れた空間作りをしている。乾燥予防に加湿器を設置し感染予防を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間でトランプやカラオケや風船バレー、おはじき等を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具はゴザや畳、各自好きなものを利用している。テレビやラジオを持ち込み自由に使用することができる。	事業所でベッドとタンスを準備しているが本人の希望・状況に合わせて介護用ベッドや、使い慣れた寝具やタンス、馴染みの鏡台や写真、テレビ等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように好きなように配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いじりをする利用者様に対して、トイレの前にお部屋を移動するなど、トイレの場所が分かる事で放尿がなくなったり、トイレのドアを常時開けておくことでトイレの場所が分かり失禁を減らすことができる。またお部屋に名前を付ける事で自分の部屋を間違えなくなった。		